

8) 陸域生態系（小型コウモリ類）

(1) 事後調査を行うこととした理由

小型コウモリ類は、餌場及び移動経路の創出と出産・哺育時期の工事中の騒音・振動の影響の低減を行うこととしているが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であることから、事後調査を行う。

(2) 事後調査の項目及び手法

事後調査の項目及び手法は以下のとおりである。

項目	<p>生息状況及び利用状況 建設機械の稼働及び航空機の離発着に伴う騒音・振動レベル</p>
調査地点・範囲	A, D洞窟
調査時期等	<p>生息状況及び利用状況 工事の実施及び飛行場の施設の供用後3～5年程度。 出産・哺育期である5月、6月、秋季、冬季の休眠時期である1月または3月。 建設機械の稼働及び航空機の離発着に伴う騒音・振動レベル 工事の実施により建設機械の稼働による騒音・振動レベルが最大となる3年次～5年次の出産・哺育時期及び冬季の休眠時期。 飛行場の施設の供用後（航空機の離発着に伴う騒音・振動レベル）の3年程度の出産・哺育時期及び冬季の休眠時期。</p>
調査方法	<p>生息状況及び利用状況 昼間あるいは夜間に洞窟内で懸下しているコウモリ類に赤色光スポットライトを照射し、目視により種ごとの個体数を調査する（目視法）。あるいはビデオ撮影が可能な場所で洞窟の出入り口でビデオ装置を使用し出洞個体数を調査する（ビデオ撮影法）。出産・哺育や冬期の休眠などの生息状況及び利用状況を観察する。 建設機械の稼働及び航空機の離発着に伴う騒音・振動レベル A, D洞窟の洞口及び洞内において、騒音・振動レベルを測定する。</p>